

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300052		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家 北広島 かえで		
所在地	北広島市西の里南1丁目1-18		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2015.022_kan=true&JigyosyoCd=0191300052-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は介護に従事する者として、人権尊重・人格尊重・人権擁護の基本理念を理解し、職員自身も自らの個性を受け入れて理解しながら、利用者一人ひとりの「自分らしさ」「私らしさ」を支援できるように日々努めている。
かえでユニットは、体操やレクリエーションを多く取り入れ、利用者の皆さんに参加して頂いています。毎日笑顔で楽しく、「その人らしさ」を大切に生活が送れるよう支援を心掛けていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あさひの家北広島」は、バス停から近い住宅地に建っている2ユニットの事業所である。建物横に樹木が立ち並び、利用者は居間や居室の窓から緑の木々を眺めたり、周囲や公園を散歩して季節感を味わっている。近くには西の里会館、福祉施設、市役所の出張所などがあり、管理者は西の里「たすけあい会議」の構成員になり、町内会や行政と連携しながら地域の環境づくりに事業所として積極的に関わっている。昨年の事業所4周年記念には家族や近所のボランティア、民生委員の参加も得られている。市の「介護支援ボランティア事業」を活用し、近隣住民のボランティアは利用者と同馴染みになっている。運営推進会議では同業者のグループホームと相互に会議のメンバーになり情報を共有している。会議後に食事会を設けることもある。医療連携で看取り時には週1回の主治医の往診と訪問看護ステーションと家族の契約で週3回の訪問があり、常に相談できる体制を整えている。職員は看取りを通してケアを学び、内外の研修後に全職員が報告書を作成して内容を深めている。管理者と職員は、利用者が町内会の夏祭りや地域の集会所で子供と交流し、福祉施設の虹サロンの集まりで住民と共に楽しみ、馴染みの関係を継続しながら積極的に外に出て、自分らしい暮らしが出来るように支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関フロアと各ユニットの事務所に提示している。理念については、ユニット会議の時に管理者が取り上げたり、日々の業務の中で職員同士で話している。	独自の事業所理念に、地域社会とのつながりを大切にするという内容があり、地域密着型サービスを意識して住民と交流している。職員の採用時に管理者は利用者の尊厳を大切にケアを伝え、会議などで理念に触れて確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の会員として、地域行事や会議に参加・協力している。西の里地区夏祭りでは射的コーナーを出店し、利用者や地域の子供が交流した。また、地域の集会所にて利用者と保育園児との交流を図った。	集会所で行われる保育園児との交流会に毎年参加して昔遊びを楽しんでいる。また今年度は住民や行政との話し合いで1階内にある小規模施設を「学童クラブ」に変更し、児童の来訪でプレゼントがあるなど、新たに子供との交流が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西の里たすけあい会議の構成員、また西の里おれんじカフェの運営スタッフとして、認知症の方が出来る限り住み慣れた地域で自分らしく生活し、家族も情報交換できるように、地域の住民や専門職と協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族・地域住民・民生委員・市高齢者支援課・地域包括支援センター職員等が参加し、2ヶ月毎に開催。事業所の現状や日々の活動内容・自己評価・外部評価について報告している。	年間の会議テーマを作成し、防災、感染症のほか、看取りなどで意見を交換している。テーマに沿って全家族に会議案内を送付しているが、意見は特になく、現在1名の参加になっている。議事録と一緒に参考になる資料も送っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム部会等で利用者とサービスに対する近況などを報告して、意見を頂く状況をつづけている。また、行事の案内も行っている。	建物1階の「学童クラブ」開設時に、住民や行政と法人が運営方針を検討する会議に管理者も参加し、頻りに話し合う機会になった。市の「介護支援ボランティア事業」を活用し、ボランティアの協力も継続して得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症ケアについての各種の研修会に参加。また、ユニットでのカンファレンスにて人権尊重という理念を常に念頭に置き、身体拘束を防止する体制ができています。	前年度には行政主催の身体拘束に関する研修会を職員も受講し、今回は研修会の資料などを用いて内部研修を行っている。事例に沿って拘束をしない方法話し合い、身体拘束禁止行為11項目もユニット事務所に掲示し、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待対応支援マニュアルを基にユニット会議にて資料の読み合わせを行い、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各研修会に参加し、研修報告書を閲覧、意見交換し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等は時間をとり、丁寧に説明。特に利用料金や起こりうるリスク、個人情報保護、医療連携体制の実施について詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。運営推進会議等で常に問いかける等、話しやすい雰囲気作りに努めている。	家族の来訪時に職員も対応し、ケアの方法を話し合いながら意見を聞いている。日々の記録や担当者会議を通して職員は家族の意向を共有している。今後は家族の意見などを個人ごとに記録し、個別の些細な想いも共有したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス、勉強会、委員会、運営推進会議等で意見を聞くようにしている。また常日頃からコミュニケーションを図るように心かけている。	毎月のユニット会議やサービス担当者会議で全職員の意見を引き出しながら業務に反映させている。管理者は職員との面談で個別の想いに耳を傾け、働きやすい環境整備を考えている。職員は交代で行事を企画するなど業務を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じ随時個人面談を行っている。時給従業員等、種類に応じて就業規則を細かく設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で開催される研修には、全職員が参加できるよう配慮し、研修報告は全体会議等でフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島市GH部会や地域たすけあい会議に参加し、定期的な管理者と職員の相互訪問(昼食会等)、親睦会を行い、お互いの学びや気付き、悩みの共有の場を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用相談があった時、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向かい、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや困っている事、今までのサービスの利用状況等、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスに繋げる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	下膳やタオルたたみ、プランターの水やり等の生活場面における手伝いを職員と共に行う事で、日々お互いに支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。家族にできることはお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人がホームに遊びに来たりと、今までの関係が途切れないよう働きかけている。	昔の職場や宗教関係の知人が来訪している。地域の西の里おれんじカフェや虹サロンで知り合いの方に出会うこともある。歌の好きな利用者が数名で地域のボランティアミニコンサートを鑑賞したり、職員自宅の畑に出かけて収穫を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、利用者同士が関わり合えるよう紹介し、毎日楽しく過ごせるよう努めている。		

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、経過をフォローし、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり、言葉、表情等から利用者の思いを把握出来るよう心がけている。	会話が難しい場合は普段の行動や話しかけて反応から思いを把握している。センター方式のシートで心身状態を記録しているが、介護認定時期の更新になっている。	ライフヒストリーから、本人の生活習慣や嗜好、趣味などの情報を収集し、センター方式のシート(B-3)に利用者の言葉などを記録し、現在の思いを共有できるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式でのアセスメント等を利用し、本人、家族から聞き取り、把握に努めている。入居後も折に触れ、本人、家族にライフヒストリー表の記入を依頼している。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の24時間の記録で、利用者一人ひとりの日常生活を把握。日々の変化、行動等を観察している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族に、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。職員間では、日々の生活を意見交換し、その人らしいプランになるよう心がけている。	計画作成担当者が、担当職員から情報を聞いてモニタリング表を作成している。それらを担当者会議で確認し、3か月ごとに介護計画を作成している。今後は担当職員もモニタリング表に記録ができるように検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の変化は、個別のケア記録に記入し、職員間で情報共有をしている。記録をもとに介護計画の見直し、評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心して生活の継続が出来るよう、医療連携体制を活かしながら、本人、家族の状況や要望を聞き、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らせるよう、西の里会館で行われる西の里サロン等に参加し、地域の方との交流と共に認知症予防の体操を行っている。また、介護支援ボランティア事業の受け入れ施設として申請・登録している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は、本人や家族の希望に応じて対応。基本的には、家族同行の受診だが、不可能な時は職員代行。利用契約時、その旨を説明し、同意を得ている。	月2回協力医療機関の訪問診療を受けている。専門的な他科受診は、かかりつけ医の継続や協力医の紹介で通院し、状態が安定している時は家族が対応している。「医療関係報告書」に往診、通院の内容を記録し個別に管理している。	

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護職員と契約し、利用者の健康管理、状態変化に応じた支援を行えるようにしている。介護記録を使用し、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する基本情報を医療機関医に提供したり、電話でも情報提供を行っている。また、家族とも情報交換しながら回復状況等速やかな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、利用開始時に、本人と家族に事業所が可能なケアについて説明した上で、指針を取り交わしている。職員は、指針の内容や事業所の方針を共有している。	利用開始時に看取りの考えを説明し、状態の変化に沿って関係者で方針を確認している。昨年は詳細な内容の「看取り指針」を交わして2件の看取りを実施し、現在も行っている。職員は内外の研修で看取りケアを学び、振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加。スタッフルームに対応マニュアルを掲示。夜勤時の緊急対応について、マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を含め、年2回実施。運営推進会議において、災害時のお互いの協力体制について話し合っている。昨年は10月に学童クラブ2名と地域住民1名に参加・協力をして頂き、避難訓練を実施した。	消防署の指導で日中を想定した避難訓練には学童クラブの児童や近所のボランティアが参加している。3月中に夜間想定自主訓練を予定している。非常災害時のマニュアルを整備しているが、地震を想定しての対応は話し合っていない。	非常災害時のマニュアルを共有するとともに、地震を想定し、事業所内の危険な箇所や各ケア場面の対応について職員間で話し合うことも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折に、職員の意思向上を図るとともに、日々の関わり方を見直している。記録記入は、利用者から少し離れた場所で記入している。	職員は入社時のオリエンテーションや研修で、ストレスと感情コントロールの解決法を学び、利用者の人格を尊重した言葉かけをしている。書類も慎重に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めた事を押しつけず、複数の選択肢を提案。利用者一人ひとりが自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。できるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみが整えられるよう職員は、お膳立てしたり、不十分な所や乱れは、さりげなく直している。また、入浴後の衣類は選んでもらっている。		

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は旬の食材や新鮮な物を取り入れ、利用者の好みや苦手な物を踏まえたメニューを工夫している。その他、下膳、食器拭き等、利用者の協力を得ている。	バランスとカロリーを検討し職員が献立を作るが、外出行事の出先で食べたり、事業所内で出前寿司、ジンギスカン、ちらし寿司や、また ひな祭りのデザートバイキングも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ等も含めて、利用者一人ひとりが1日全体で栄養や飲水量がどの程度摂れているのか記録。職員が常に意識しながら関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、利用者の力に応じて職員が見守り、介助を行っている。就寝時は、義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄出来るよう排泄表を見ながら適宜にトイレ誘導を行っている。日中は布パンツとパッド、夜はリハビリパンツ等を利用者に応じて使い分けている。	全員の排泄記録を記入し、座位が保てる場合は誘導や介助にてトレイでの自然排泄を促している。身体的に重い場合は、ベッド上で排泄用品の交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。午前はラジオ体操とレクリエーション、午後は手足を適度に身体を動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴する事ができ、1人週2回を基本に入浴している。利用者と事前に入浴する声掛けをしているが、半分の入居者が体調不良や倦怠感の訴えがあり、週1回程度になることがある。	日曜以外の午後に、2~3人が毎回湯を張り替えて入浴している。スムーズに誘導できるように声かけする職員を変えたり、入浴日をずらすなどの取り組みをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、体操や散歩、余暇活動等に参加を促し、日中熟睡しないよう声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や薬情報をケース毎に整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬は、本人に手渡しし、服用出来ているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみ、プランターの水やり等、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割としての手伝いをお願いしている。		

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ地域のサロンやおれんじカフェに出掛けしている。また、系列の老人ホームの夏祭りに外出したり、近隣の商業施設に外食や買い物に外出している。	外出計画で、平岡公園の桜や紅葉、雪印種苗や上野幌園芸センターのバラ、農場の収穫祭、西の里集会所やオレンジカフェに出かけている。近くのコンビニや通学路、遊歩道で散歩をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持している利用者はいないが、外出や外食などの企画の際に、希望や力に応じて、所持と使用をしたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との対話を求められた時に職員が電話をかけ、話してもらっている。また、FAXでお手紙を頂くよう依頼している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、落ち着ける雰囲気作りにも努め、廊下には写真や利用者の作品を飾り、季節間のある装飾にも心がけている。温度、湿度にも配慮し、心地よく過ごせるようにしている。	明るく清潔な共有空間は、大勢が集うリビングの他に、回廊奥のベンチに腰掛けたり、多目的ホールで読書やテレビをみるなど、利用者が自由に居場所を作れる環境にある。リビングから離れた場所にトイレがあり、プライバシーに配慮して居心地よく過ごせる共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席もあり、その時々により本人の好きな場所に座ってもらい、思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外にもそれぞれの利用者の好みや馴染みのもの等、生活スタイルに合わせて置いている。	落ち着きのある廊下から一歩居室に入ると、それぞれが我が家のように個性のある部屋になっている。家族の写真や使い慣れた物品が置いてあり、タンス、椅子、テレビ、時計等を自由に配置し居心地よく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室等の手摺りを設置したり、居室の表札に付けてある飾りは利用者と一緒に手作りで親しみやすいものを用意している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300052		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家 北広島 つつじ		
所在地	北広島市西の里南1丁目1-18		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は介護に従事する者として、人権尊重・人格尊重・人権擁護の基本理念を理解し、職員自身も自らの個性を受け入れて理解しながら、利用者一人ひとりの「自分らしさ」「私らしさ」を支援できるように日々努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2015.022_kani=true&JigyosyoCd=0191300052-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の内容をユニット会議や送り等で話し合い、地域住民や家族、入居者同士のより良い関わりについて、意見を出し合いケアに取り入れている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の会員として、地域行事や会議に参加・協力している。西の里地区夏祭りでは射的コーナーを出店し、利用者と地域の子供が交流した。また、地域の集会所にて利用者と保育園園児との交流を図った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西の里たすけあい会議の構成員、また西の里おれんじカフェの運営スタッフとして、認知症の方が出来る限り住み慣れた地域で自分らしく生活し、家族も情報交換できるように、地域の住民や専門職と協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者とサービスに対する近況などを報告して、意見を頂く状況をつくっている。また、行事の案内も行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との係わりは担当課との連絡のほか、GH部会や地域たすけあい会議を通して協力体制を築くよう配慮している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症ケアについての各種の研修会に参加。また、ユニットでのカンファレンスにて人権尊重という理念を常に念頭に置き、身体拘束を防止する体制ができています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待対応支援マニュアルを基にユニット会議にて資料の読み合わせを行い、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つづ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会に参加し、ホーム内での資料回覧でフィードバックし理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書など、時間をとり、丁寧に説明している。利用料金、リスクとその管理体制、個人情報取り扱い、医療連携体制の実施などについて詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で外部の方々の意見や思いを伝えられる機会を作っている。意見箱の設置や、利用者のことばや態度から思いを察する努力を行い、不安・意見・苦情などについても職員で話し合い、対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス・個別面談・運営推進会議等で意見を聴くようにしている。コミュニケーションを意図的に行い、職員の意見・要望などの思いを聞くようにもしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に来て、利用者と過ごしたり、個別職員の業務や思いを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で開催される研修には、全職員が参加できるように配慮し、研修報告は全体会議等でフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島市GH部会や地域たすけあい会議に参加し、定期的な管理者と職員の相互訪問(昼食会等)、親睦会を行い、お互いの学びや気付き、悩みの共有の場を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つづ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人と会い、心身の状態や本人の思いに向き合い、不安や願いを受け入れる体制が確保されていることを説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労やこれまでの経緯について聴くようにしている。話を聴くことで落ち着き、次の段階への相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟な対応を行っている。場合によっては、他事業所のサービスに繋げる対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、掃除、カーテン閉め等の生活場面における手伝いを職員と共に行い、日々何気ない会話を楽しみ、お互いに支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。家族にできることはお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人が来訪している。、継続的な交流が出来るよう働きかけ、多目的室を解放している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士過ごせる場面をつくる等、関係性がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や入居先担当者に電話等で様子をお聞きし、必要に応じて経過をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の好きな事や得意なことを見出すように努めている。また言葉や表情などからも本意を読み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフヒストリー表やセンター方式でのアセスメントなどを利用し、本人や家族、関係者から伺うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議や送り、24時間の記録で利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、言動や細かな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が「自分らしく」暮らすことができるように、サービス担当者会議等を開催、本人や家族から不安や願いを聞き、共に目標を達成していけるオリジナルな介護計画を関係者に意見をもらいながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や職員の気付きは、個別のケア記録に記載し、職員間での情報共有に努めている。個別記録をもとに介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続など、本人・家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らせるよう、西の里会館で行われる西の里サロン等に参加し、地域の方との交流と共に認知症予防の体操を行っている。また、介護支援ボランティア事業の受け入れ施設として申請・登録している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。状態変化・悪化がみられる場合は、電話連絡での指示、受診、往診が早急に受けることができる。		

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つづ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員情報提供にて、医療機関との連携をはかり、健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報(介護添書等)を医療機関医に提供し、職員は家族とも情報交換しながら回復状況等確認し、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、意思確認を行い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所外における救命講習に参加し、状況に応じた応急処置の方法を訓練している。また、マニュアルの作成によって、全職員が落ち着いて対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を含め、年2回実施。運営推進会議において、災害時のお互いの協力体制について話し合っている。昨年は10月に学童クラブ2名と地域住民1名に参加・協力をして頂き、避難訓練を実施した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの際、職員の資質向上を図ると共に、日々の関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の人格を尊重し、個々人がわかりやすい言葉でいくつかの選択肢を提案して、一人ひとりが自ら決定できる場合をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「一日の流れ」はあるものの、一人ひとりの人間性に配慮しながら、今何がしたいのか聞き出し、できるだけ「私らしい生活」ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人本意で身だしなみが整えられるよう、家族にも協力をお願いし、支援している。個別の生活習慣に合わせて、おしゃれを楽しみ、外出や買い物、行事に参加している。		

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを採り入れ、時には出前や外食等で、楽しめる雰囲気を提供している。食器拭きや下膳等を、職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつや補食も含めて利用者一人ひとりが、1日全体で、栄養や水分量がどの程度摂れているのか記録し、職員が常に意識しながら関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の24時間記録にて排泄チェックを行い、パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、声かけ、誘導を行い、自立に向けて支援を続けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳や飲むヨーグルトを提供、繊維質の多い食材や乳製品を摂り入れている。水分量も視野に入れて、体操や散歩、家事活動など身体を適度に動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間の長短、湯温など個別に把握し、ゆっくり入浴できている。入浴されながらいない利用者には、タイミングを見て、事前に声かけしたり、楽しく入浴できる雰囲気づくりを心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、体操や散歩、行事等に参加を呼びかけ、日中傾眠強くないように配慮している。居室で休まれている時は、体調確認等の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や薬情報を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。処方や容量が変更されたり、状態変化がみられるときは、送りノートやいつもより詳細な記録をとり、医療機関と連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	動物やのど自慢のビデオ等、お好みに合わせて選んで頂き、鑑賞している。食器拭きや掃除の家事活動も適宜役割として行っている。		

グループホームあさひの家北広島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、そして本人の気分や希望に応じて、季節を感じてもらい、心身の活性化に繋げるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。また他のフロアーに行き来して、利用者同士の交流を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持している利用者はいないが、外出や外食などの企画の際に、希望や力に応じて、所持と使用をしたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から定期的にお手紙を郵送して頂き、ご本人が安心して生活出来るよう工夫している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの飾りつけは、利用者と一緒に考えて行っている。ソファでテレビを観ながら、お喋りしたり、カーテンの開閉を利用者同士で協力合っている。新聞やチラシを皆さんで仲良く見られ、本の好きな利用者はゆったりと読書している。雛人形や五月人形等、飾り付けを一緒に行い、季節感も意識的に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーやテーブル席があり、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士で寛いでいる姿がある。天気の良い日は、多目的ルームで日向ぼっこされることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外に、利用者の好みや馴染みのものや、レクリエーションなどで作った作品を配置して、ご本人の思いに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室等の手摺りを設置したり、居室の表札に付けてある飾りは利用者と一緒に手作りで親しみやすいものを用意している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家北広島

作成日：平成 30年 3月 19日

市町村受理日：平成 30年 3月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	ライフストーリー表を活用するものの、今現在の生活、趣味や嗜好の記載が不足しています。また、アセスメントシート(センター方式)の更新が要介護区分変更時や更新申請時のみとなっています。	利用者本位の暮らしに添うため、センター方式を活用し、アセスメントシートの更新を定期的実施する。	計画作成担当者と協力し、入居者様担当職員がアセスメントシート(センター方式B-3シート)の3ヶ月毎の更新を図ることにより、思いや意向の把握・職員間の情報共有に努めます。	1年
2	35	防災マニュアルの確認の場を設け、火災以外の災害を想定した話し合いができていない現状です。	防災マニュアルについて再確認する。	ユニット会議で防災マニュアルの確認を行い、地震を想定した災害への対策(事業所内危険箇所の把握)や入居者様への各ケア場面の対応についても検討していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。